

大阪経済大学経済学部と済州大学校経商大学との 日韓交流学術セミナーについて

標記セミナーが2003年2月4日の13時から17時45分まで、E館7階の同窓会ホールにて、済州大学校経商大学10名、本学教員11名、他大学2名の参加で開催された。

最初に山本恒人本学経済学部長から開会の挨拶があった。現在におけるアジア経済の変動の中で、今後の日韓経済のおかれた状況について積極的に議論が展開される事を期待する旨を述べた。

第1報告は、李震熙経商大学観光開発学科教授より、「ポジショニング視点から見た済州島のゴルフ場開発」の報告があった。済州島内の7つのゴルフ場について、利用者に28項目のアンケート調査を行ない、ポジショニングの視点から、接近性、価格性、サービス性など7つの項目にまとめ、各ゴルフ場の評価を行った。

第2報告は麻生憲一奈良県立大学助教授より、「韓国と日本との観光旅行者の動向」の報告があった。日本・韓国の旅行者の動向について、インバウンド（入国）、アウトバウンド（出国）の動向、貿易収支の動向などマクロ的視点から報告があった。とくに観光市場としての中国の役割が大きくなっていることが強調され、新しい観光形態としてグリーンツーリズムなどを注目した。

コーヒーブレイクの後、第3報告は、藤本高志本学経済学部助教授が「日本における農村ツーリズムについて」を報告した。パワーポイントを使って、日本における農村ツーリズムの実態を紹介しながら、民宿利用のソフトツーリズムの役割を強調した。

最後の第4報告は、李庸完経商大学貿易学科教授の「済州島産豚肉の日本輸出戦略」の報告があった。韓国内で高い評価を受けている済州島産豚肉をいかにして評価を高め、日本への輸出量を増やすかの戦略が報告された。とくに安全安心の側面が強調された。

閉会のあいさつに立った朴祥洙済州大学校経商大学学長は、今後両大学の学術交流

を積極的にすすめていくことを提案し、夏に経商大学で開催することを希望する旨を述べた。

司会は徳永光俊本学経済学部教授が担当し、朴泰勲本学経営学部専任講師、李哲龍本学大学院生が通訳にあたった。事務方より学務課、国際交流課の援助を受けた。

終了後、E館の第1・2会議室で懇親会を開催し、交流を深めた。

(文責 徳永光俊)

